

## 第2節 絵画土器・記号土器について

本書で報告する旧練兵場遺跡第28次調査7-2・7-7～9・7-13・14区からは19点の絵画土器または記号土器が出土した。また、同じく第28次調査の7-1・7-3～6区では2点の絵画土器または記号土器が出土した（表11）。第3章で、これらの遺物を遺構ごとに報告したが、集成して再度掲載する。

### 1. 絵画土器・記号土器

建物（1673）・建物？（1892）

7-7区で出土した土器片1673には建物が描かれている。1673は7-7区の南部を走る古墳時代後期から奈良時代の溝SD0704の埋土上層から出土した。SD0704の下層には、概ね弥生時代中期後半に埋没する河川（SR01）が存在することから、本来は河川埋土に埋没していた可能性が高い。1673は幅11.1cm、高さ10.2cm、厚さ1.1cmである。5個の破片が接合したもので、中央部は欠損する。外面にヘラミガキ、内面にはナデが施される。湾曲がほとんどみられないことから、弥生時代中期後半の大型壺の破片と考えられる。外面にはヘラミガキの上に建物の屋根・柱・部屋がヘラ描きされる。建物の屋根は台形で、屋根の内部は縦横方向の格子で埋められる。屋根の形状から桁行方向からみた寄棟造が描かれているこ

表11 絵画土器・記号土器一覧

報告書名	番号	器種	出土位置
旧練兵場遺跡V	80	弥生土器壺	7-2区 SH11
	308	弥生土器壺	7-7区 SH01
	310	弥生土器壺	7-7区 SH01
	399	弥生土器壺	7-9区 SH01
	400	弥生土器壺	7-9区 SH01
	401	弥生土器壺	7-9区 SH01
	402	弥生土器壺	7-9区 SH01
	593	弥生土器壺	7-13区 SH21
	858	弥生土器壺	7-7区 SP84
	990	弥生土器	7-14区 SP480
	1207	弥生土器壺	7-9区 SK02
	1337	弥生土器壺	SD0720
	1341	弥生土器壺	SD0719・SD0720
	1443	弥生土器壺	SD1410
	1449	弥生土器（不明）	SD1410
	1644	弥生土器壺	SD23
旧練兵場遺跡IV	1673	弥生土器壺	SD0704
	1694	弥生土器壺？	SD0704
	1892	弥生土器壺	SD34
	486	弥生土器（不明）	6-2区 SH08
	488	弥生土器（不明）	6-2区 SH07

とがわかる。屋根の頂点とその少し下には斜め上方向に延びる屋根飾りがある。側端に2個ずつで合計4個ある。屋根飾りは一重の渦巻き（下向きに巻く）である。屋根の下には部屋があり、部屋の両端から下に向かって1本線がのびる。柱を表現しているのであろう。両端に1本ずつ柱があり、桁行は1間である。柱の下端は欠損しているため、柱の長さは不明であるが、建物の幅に比べると、かなり長く、高床の建物と考えられる。柱は2本表現されているだけあるが、梁間も1間であろう。また、柱の上にある部屋の壁は斜格子で埋められている。斜格子は整然とした菱形ではなく、ややいびつな菱形である。ヘラ描きの順番を観察すると、最初に屋根の頂辺の横線を描き、次に側辺、その次に屋根の内部を埋める縦線または、屋根の下部にある柱を描く。屋根の輪郭の下辺の横線は柱のあとで、屋根の内部の横線は縦線のあとである。屋根飾りは屋根の輪郭のあとに描き、壁の床を表す横線は柱のあとである。屋根と柱の輪郭のあとに屋根の下辺を描くのは不自然ではあるが、建物は左右対称で、バランスよく描かれている。また、各縦線を観察すると右のほうが線刻が深いことから、右手で描いたことがわかる。

1892は数条の直線と斜線が描かれる。絵画全体の様相は不明であるので、建物と断定することはできないが、屋根と壁の部分を表している可能性が高い。

### 龍または魚（401・402）

401・402の絵画は龍または魚の可能性はある。いずれも小破片で全体は不明であるが、401はひれ状の突起が3個、402は突起が1個描かれる。これらは古墳時代後期の堅穴建物7-9区SH01から出土し

ているが、重複する竪穴建物 SH09・SH11 は弥生時代後期のものであることから、これらの遺物は弥生時代後期に属する可能性が高い。

#### 組帯文 (308・1449・1644・1694?)

308 は壺の頸部片で外面に横方向の直線、弧状の文様がある。308 が出土した 7-7 区 SH01 は弥生時代後期後半の竪穴建物であるので、308 は弥生時代後期のものと考えられる。1449 は破片で、器種不明であるが、外面には円弧と直線が描かれる。1644 は断面形が湾曲することから、壺の体部片であると考えられる。外面にはヘラ描きによる組帯文が施される。1694 は弥生時代後期の壺の頸部片である。破片であるため、文様の全体は不明であるが、組帯文の可能性が高い。

#### 円弧 (310・1337・1443)

310 は壺の体部片である。外面には弧状の文様がある。弥生時代後期に属する。1337 は弥生時代中期後半の壺で、体部上半に 3 条 1 単位の円弧が 2 組ある。1443 は壺の頸部である。外面に円弧がある。

#### 記号など (80・399・400・593・858・990・1207・1341)

80 は弥生時代後期前半の壺で、頸部と体部の境界付近に 4 条 1 単位の円弧のヘラ描きがある。399 は 1 本の縦方向の直線、400 は横方向の直線と V 字状のヘラ描きがある。横線のあとで V 字を描く。593 は弥生後期の壺の頸部片である。外面には横方向・縦方向の数条の弧状のヘラ描きがある。858 も壺の体部片である。横方向の円弧の上部に三角形のヘラ描きがある。990 は壺の体部片である。斜めの直線と直交する数条の直線が描かれる。建物の可能性もある。1207 は壺の頸部に三角形のヘラ描きがある。弥生時代後期のものである。1341 は壺の体部上半に葉状の円弧が描かれる。弥生時代中期後半のものである。また、体部には焼成時の失敗で生じた剥離痕があることから、付近で焼成された土器であると考えられる。

## 2. 絵画土器 (1673) に描かれた建物

### 1673 と他遺跡の絵画土器

建物を描いた絵画土器は全国で約 70 点出土している。表 13 はそのうちの 65 点を一覧にしたものである。この表をみると、建物を描いた絵画土器の器種は壺が多く、弥生時代中期後半に属するものが大半である。出土遺跡は近畿地方に集中しており、その中でも特に多いのが奈良県田原本町にある唐古・鍵遺跡である。県内では高松市久米池南遺跡、中国・四国地方では愛媛県今治市別名寺谷 1 遺跡、南国市田村遺跡、鳥取県米子市角田遺跡、岡山市新庄尾上遺跡、雄町遺跡、岡山県総



図 300 建物を描いた絵画土器 (1673)

社市窪木遺跡から出土している。なお、別名寺谷 1 遺跡は高杯、窪木遺跡は器台、その他は壺である。

1673 の建物は高床で、寄棟造と考えられる。表 13 で集成した絵画土器のうち屋根構造がわかるもので寄棟造は 29 点、切妻造は 39 点である。切妻造の建物を表現しているもののほうがやや多いが、寄棟



造は珍しいものではない。だが、屋根の内部を埋める縦横格子はほとんど例がなく、はっきりとわかる例は奈良県田原本町多遺跡（59）だけである。奈良県橿原市四分遺跡（63）は縦横格子といえなくもないが、縦線が斜めになっており、整然とした縦横格子ではない。そのほか、岡山県雄町遺跡の絵画（8）は全体がわからないが、建物屋根であれば縦横格子の可能性が高い。建物屋根の内部全体に斜格子が描かれるものは表13では57点で、大部分を占めるが、愛媛県別名寺谷1遺跡（3）、鳥取県角田遺跡（5）、奈良県田原本町唐古・鍵遺跡第47次・77次（28）、田原本町・天理市清水風遺跡第2次（51・55）、田原本町法貴寺斎宮前遺跡（58）、京都市烏丸綾小路遺跡（64）、大阪府泉南市男里遺跡（65）は斜線または縦線である。なお、縦横格子の多遺跡（59）は1673と同じく寄棟造である。

また、1673の屋根の両端には一重の渦巻きの屋根飾りがある。絵画土器の屋根飾りの形状は渦巻き・円弧のほか、短い直線があるが、渦巻あるいは円弧状の屋根飾りのある建物の絵画が最も多いのが唐古・鍵遺跡で9点ある。次に多いのが唐古・鍵遺跡に隣接する清水風遺跡の5点である。近県では岡山県の新庄尾上遺跡（6）、兵庫県の養久山・前地遺跡（11）がある。1673の屋根飾りの渦巻きは下方に向いているが、同じように下向きの渦巻の屋根飾りをもつものは奈良県田原本町の八尾九原遺跡（60）だけである。八尾九原遺跡は唐古・鍵遺跡や清水風遺跡の近隣の遺跡である。なお、渦巻あるいは円弧状の屋根飾りをもつ屋根の形状をみると寄棟造13、切妻造13で、同数である。屋根の形状にかかわらずこのような屋根飾りが表現されることがわかる。

1673の屋根の下には部屋の壁が描かれる。屋根の下に床があり、内部が斜格子で埋められる。壁が描かれるのは愛媛県別名寺谷1遺跡（3）がある。内部は縦横格子で、1673とは格子の方向が異なる。また、1673や別名寺谷1遺跡とは少し異なるが、鳥取県角田遺跡（5）では壁と思えるような表現がある。斜格子で内部を埋めた長方形が屋根の下にあるが、この下に柱はなく、屋根から壁が吊り下げられたように描かれている。1673以外で壁の表現をしているのはこの2例だけである。なお、久米池南遺跡（2）、新庄尾上遺跡（6）、唐古・鍵遺跡（28）には屋根の下方に床が描かれているが、壁の表現はみられない。吹き抜けを表現しているのであろうか。

また、1673では部屋の下には2本の柱がある。下端は欠損しているが、桁行1間梁間1間の高床であることは間違いない。桁行1間梁間1間の高床建物を描いた例は少なく、角田遺跡（5）、唐古・鍵遺跡（28）の2例があるだけである。なお、唐古・鍵遺跡（49）には4本の柱が描かれる。桁行1間梁間1間の可能性もある。なお、角田遺跡（50）、唐古・鍵遺跡（28）の屋根構造は1673と同様寄棟である。

1673の特徴と類例をまとめる。1673に描かれた建物は下向きの渦巻の屋根飾りをもつ梁間1間・桁行1間の高床建物で、寄棟造と考えられる。全く同じ絵画を描いた土器はないが、部分的に似ている絵画はいくつかみられる。寄棟造で、桁行1間梁間1間の高床建物の絵画は唐古・鍵遺跡（28）、角田遺跡（5）がある。壁をもつ建物は最も数多く建物の絵画土器が出土している奈良県唐古・鍵遺跡や清水風遺跡ではみられないが、隣県の別名寺谷1遺跡（3）がある。また、渦巻あるいは円弧状の屋根飾りをもつ建物が最も数多く出土しているのは全国の建物の絵画土器出土例の半数以上を占める奈良県唐古・鍵遺跡、清水風遺跡であるが、両遺跡には下向きの渦巻はなく、このような屋根飾りがあるのは八尾九原遺跡（60）だけである。

建物の絵画だけではなく、弥生時代の絵画の大半は弥生時代中期後半のもので、全国で600点以上出土しているが、中でも唐古・鍵遺跡では350点以上、清水風遺跡では50点ほどの絵画土器が出土しており、全国の弥生遺跡のなかで突出している<sup>(1)</sup>。絵画はここで紹介した建物だけではなく、動物や人物な

どを画材としたものがある。動物や人物も数本の線だけで簡略に描かれているにもかかわらず、わかりやすく、適格に表現しており、これらの遺跡の人々は土器に絵を描くことに手馴れていることがわかる。おそらく建物も動物や人物と同様適格に表現していると思われる。橋本裕行氏も唐古・鍵遺跡から出土した「楼閣」絵画（図 304、表 13 の 28）は「迷いのない手慣れたタッチ」で描かれており、作者の描写能力はきわめて高く、作者はモデルとした建物そのもの、もしくは、それに類似した建物を見た経験があると考えられ、唐古・鍵遺跡の「楼閣」絵画のモデルとなった建物は唐古・鍵遺跡内に存在した可能性が高いと指摘している<sup>(2)</sup>。旧練兵場遺跡 1673 と同じ絵画は他遺跡にはないことから、唐古・鍵遺跡などから運ばれてきた絵画土器を模写して建物を描いたとは考え難く、実際にある建物を見て描いたものと思われる。また、数本の線だけで簡略に描かれているにもかかわらず、適格に表現されていることから、絵画土器が多数出土している遺跡での絵画の描き方の影響を受けて、実在する建物を描いたと考えられる。しかし、唐古・鍵遺跡や清水風遺跡の絵画土器とは屋根の内部の格子の方向などが異なることから、これらの遺跡での描き方の影響を直接受けたものではなく、八尾九原遺跡や別名寺谷 1 遺跡をはじめとする各地の遺跡の影響を受けて描かれたのであろう。

## 2. 旧練兵場遺跡の掘立柱建物と建物を描いた絵画土器（1673）

旧練兵場遺跡（1673）の絵画のモデルとなった建物はどのようなものであろうか。旧練兵場遺跡では弥生時代中期後半の 1 間×1 間の掘立柱建物は 10 棟検出されている（表 14）。これらの建物の柱穴間の距離は梁間 2.5～4.7 m、桁行 3.5～6.3 m、柱穴の掘り方は平面形方形または円形、1 辺 0.8～1.5 m である。旧練兵場遺跡の 1 間×1 間の掘立柱建物は他の弥生時代遺跡で一般的なものかどうかを検討するために香川県内の掘立柱建物の一覧表（表 15）を作成し、比較した。これをもとに県内の弥生時代の 1 間×1 間の掘立柱建物と旧練兵場遺跡の 1 間×1 間の掘立柱建物との規模の比較をしたのが表 12 上段である。表の横軸は梁間、縦軸は桁行である。旧練兵場遺跡の掘立柱建物は◆、その他は灰色の丸で表している。これをみると、旧練兵場遺跡の掘立柱建物は他遺跡の建物と比べると、梁間・桁行ともに長く、規模が大きいことがわかる。旧練兵場遺跡の中でも最も規模の大きな建物は善通寺病院調査区の中でも南端近くで検出されたⅡ-1 区 SB1004（梁間 4.7 m、桁行 5.9 m）・Ⅰ-2 区 SB2001（梁間 4.2 m、桁行 6.3 m）である。次に大きいのは同じ善通寺市内にある西碑殿遺跡 SB14（梁間 4.3 m、桁行 5.6 m）である。SB14 も弥生時代中期後半の建物で旧練兵場遺跡の建物とほぼ同時期である。これらの 3 棟はずば抜けて大きい。また、表 12 中段は 1 間 1 間に限らず、香川県内で検出された弥生時代の掘立柱建物と大きさを比較したグラフである。この表に掲載した建物は 1 間×2 間～1 間×6 間、2 間×2 間～2 間×7 間の建物である。この表をみると旧練兵場遺跡 1 間×1 間の建物の梁間は梁間 1 間の建物の中では最も長いことがわかる。また、表 12 下段は旧練兵場遺跡で検出された掘立柱建物の表である。梁間の長さを比較するとやはりⅡ-1 区 SB1004・Ⅰ-2 区 SB1002 の梁間は長い、他の 1 間×1 間の建物は桁行 2 間以上の建物と梁間の長さはほぼ同じであることがわかる。以上のように旧練兵場遺跡では 10 棟の梁間 1 間桁行 1 間の掘立柱建物が検出されているが、香川県内の他遺跡の建物と比べると大きく、その中でもⅡ-1 区 SB1004・Ⅰ-2 区 SB2001 が群を抜いて大きいことがうかがわれる。なお、Ⅱ-1 区 SB1004 の柱穴掘り方は短軸 1.5～2.0 m、長軸 1.3～1.6 m、柱痕の直径 0.3～0.35 m、Ⅰ-2 区 SB1002 の柱穴掘り方は 1 辺 1.3～1.8 m、柱痕の直径 0.2～0.25 m と大きい。

1673 に建物の絵を描いた人物はこのような旧練兵場遺跡の建物を描いたものと考えられるが、特に

大きな建物であるⅡ-1区SB1004・Ⅰ-2区SB2001をモデルとしたのではないかとと思われる。また、Ⅱ-1区SB1004・Ⅰ-2区SB2001は旧練兵場遺跡の中でも南部に位置し、最も標高の高いところに位置している。これらの建物は柱が長い高層建築物であり、旧練兵場遺跡の人々は小高いところに建てられたこの「特別な」高い建物を見上げていたのであろう。なお、寄棟造で桁行1間梁間1間の高床建物が描かれている絵画土器が出土した唐古・鍵遺跡、角田遺跡では1間×1間の掘立柱建物はまだ検出されていない。今後の調査で見つかる可能性が高い。

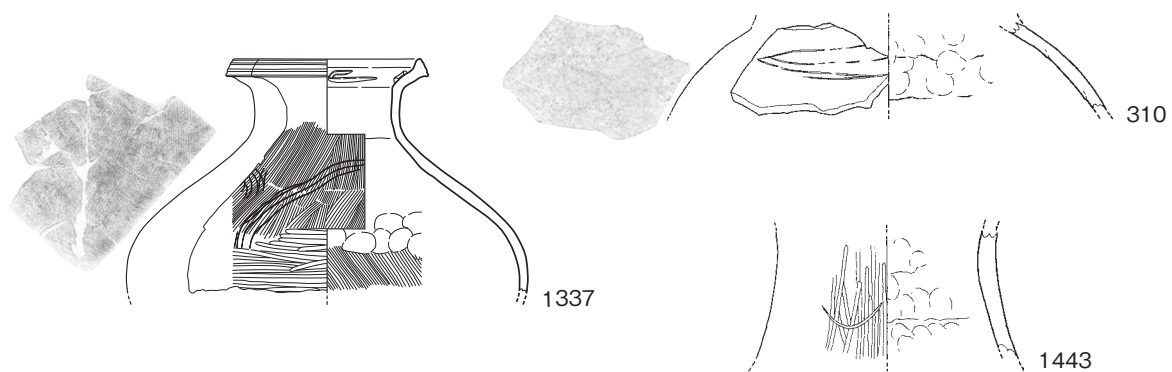
註1 『弥生の絵画』 田原本町教育委員会 2006

2 橋本裕行 「『楼閣』絵画の再考」『原始絵画の研究 論考編』 設楽博己編 六一書房 2006

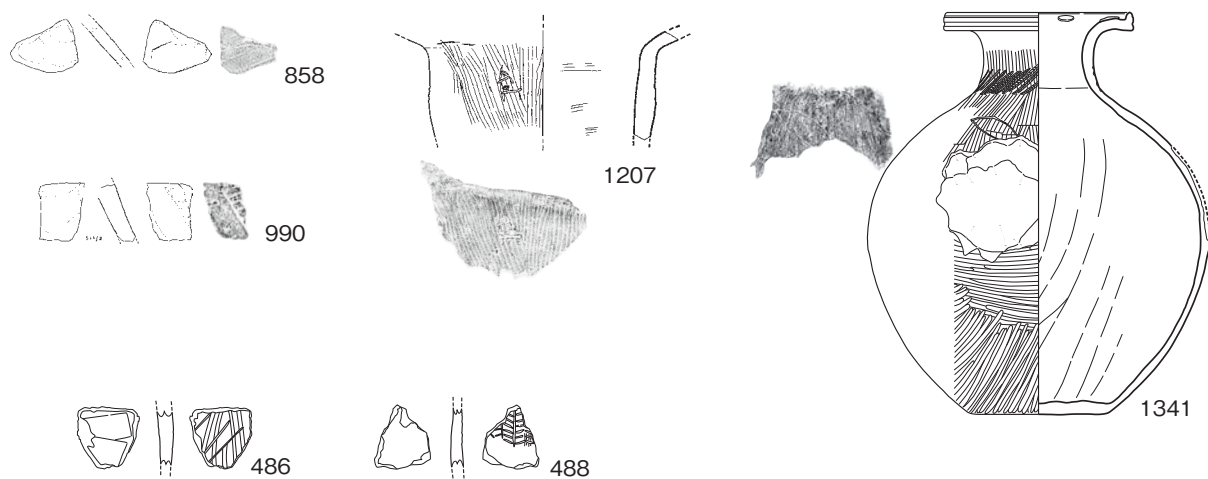
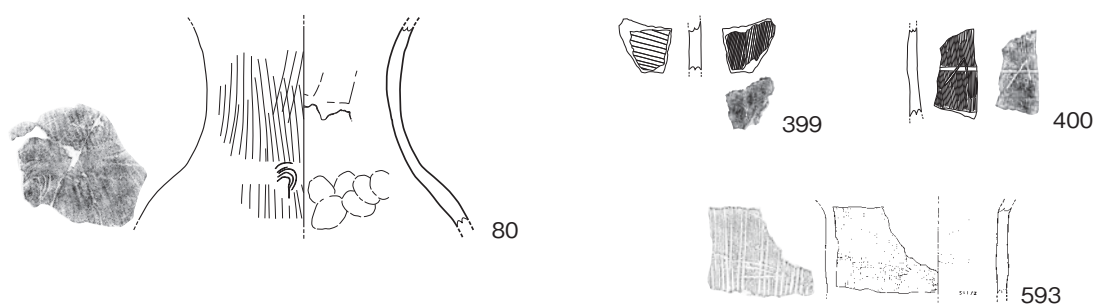


図 301 旧練兵場遺跡（第 28 次調査）の絵画土器・記号土器 (1)





円弧



『旧練兵場遺跡Ⅳ』掲載

記号など

図 302 旧練兵場遺跡（第 28 次調査）の絵画土器・記号土器 (2)

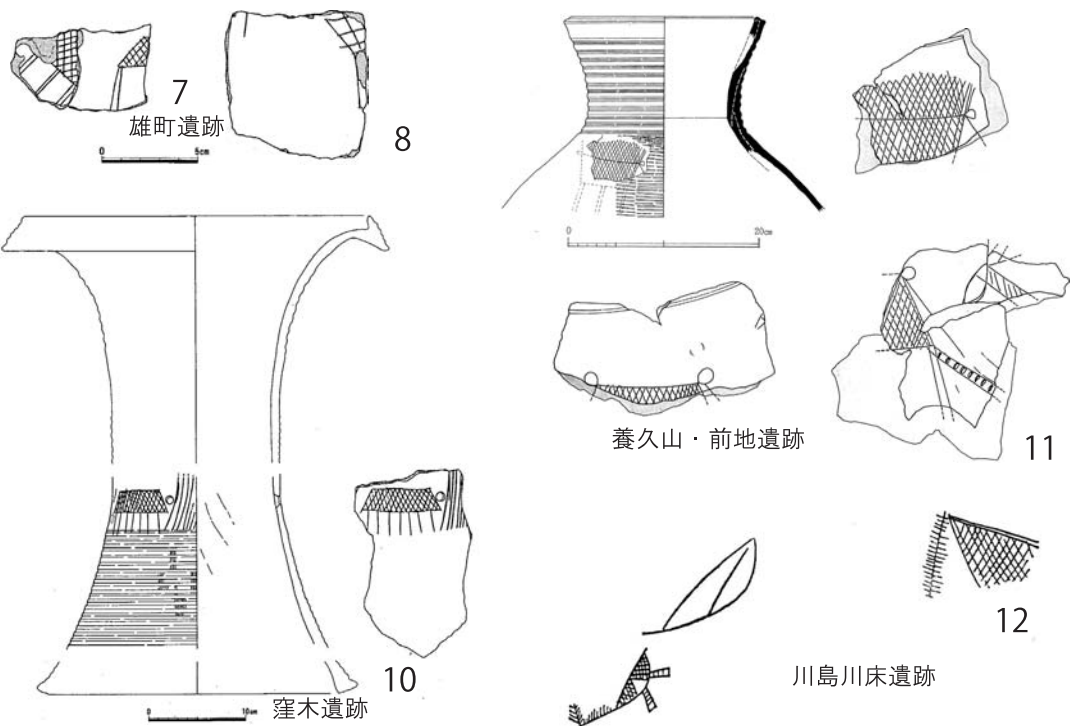
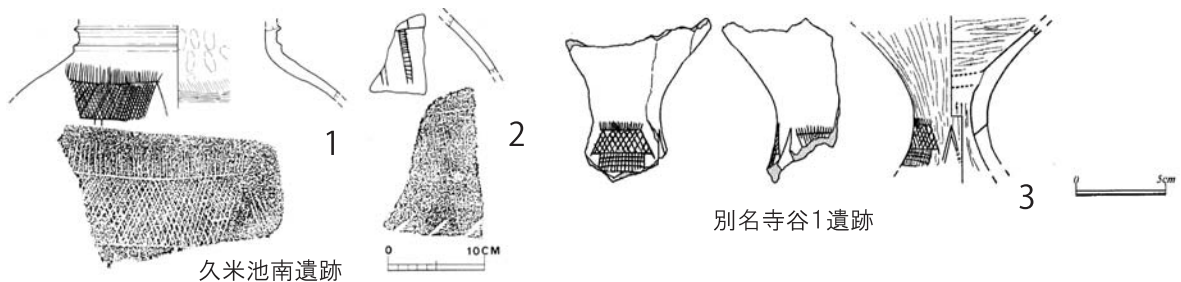
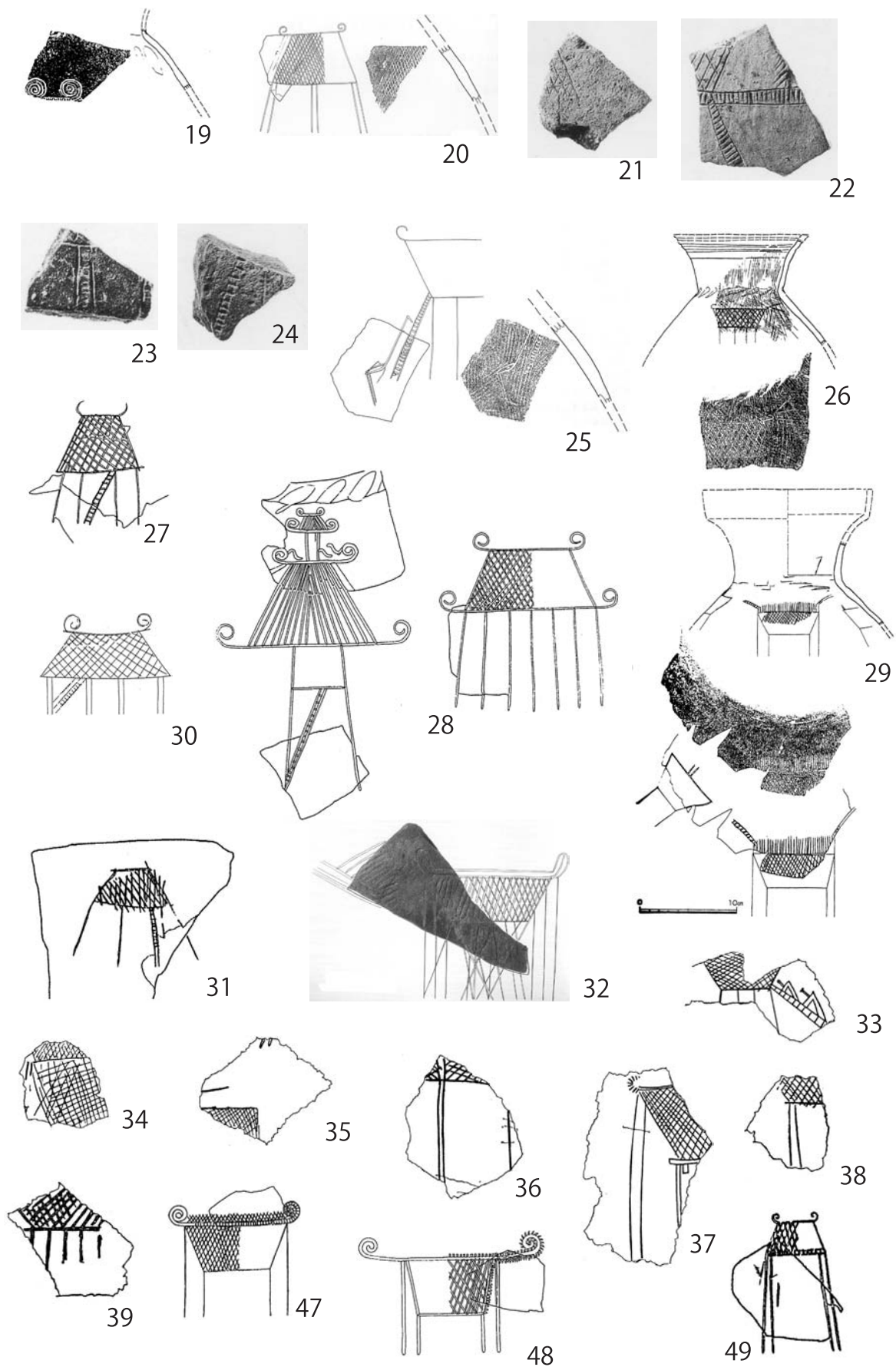


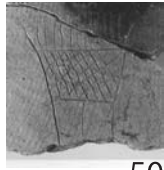
図 303 建物を描いた絵画土器 (1)



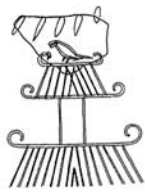
19 ~ 48 唐古・鍵遺跡  
49 清水風遺跡

図 304 建物を描いた絵画土器 (2)





50



51



52



53



54



55



56



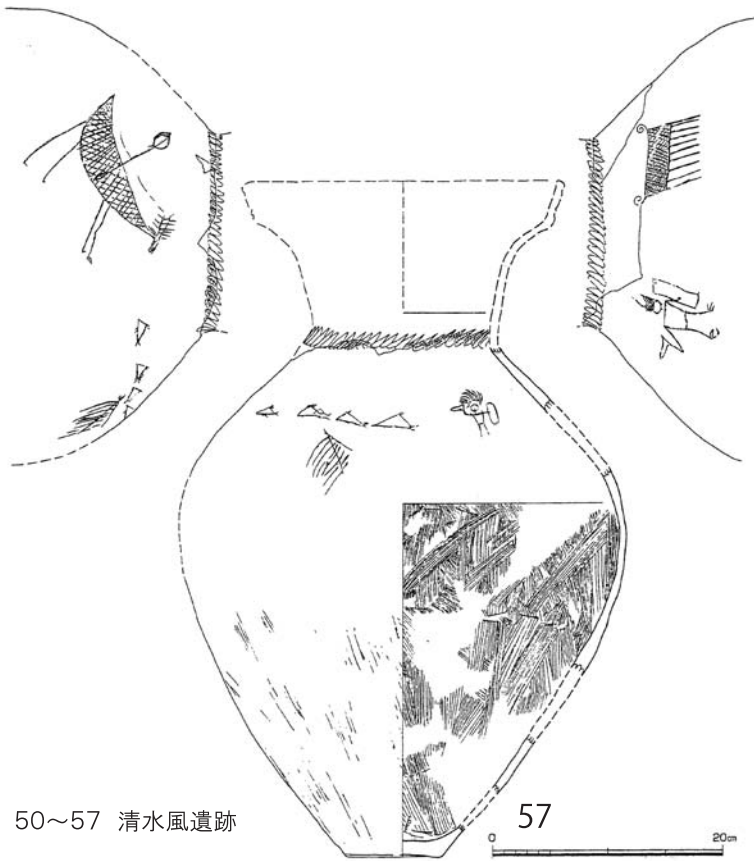
58

法貴寺齋宮前遺跡



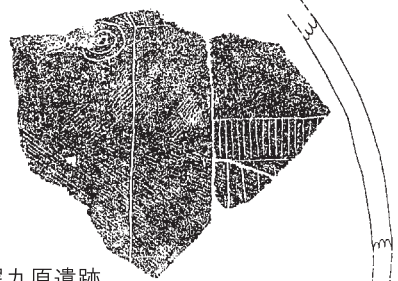
59

多遺跡



57

50~57 清水風遺跡



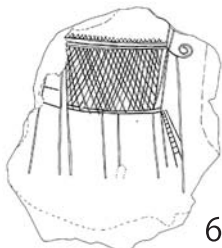
60

八尾九原遺跡



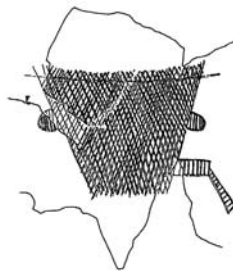
芝遺跡

61



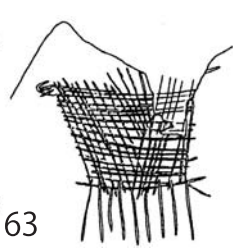
62

芝遺跡



63

四分遺跡



64

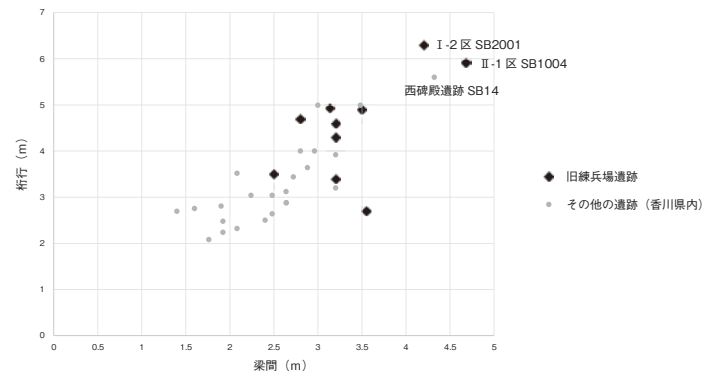
烏丸綾小路遺跡

図 305 建物を描いた絵画土器 (3)

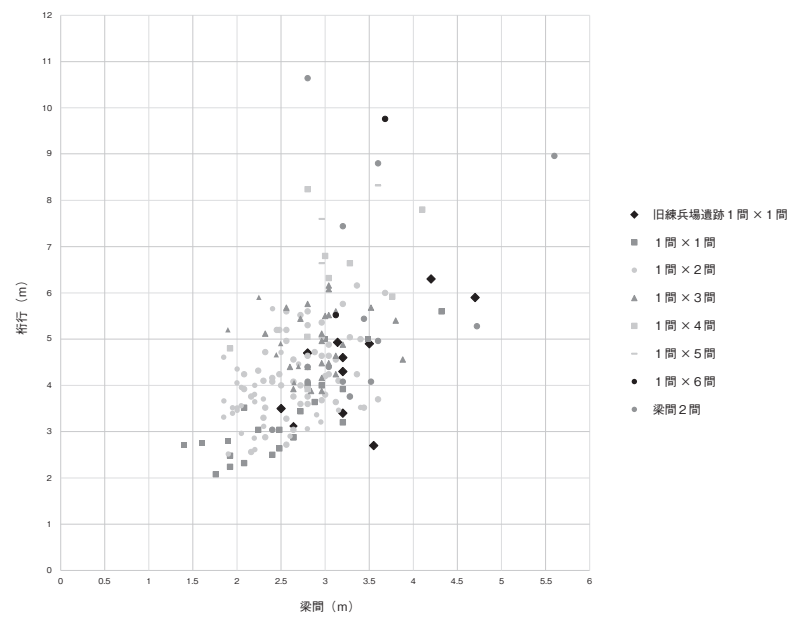


図 306 1 間×1 間の掘立柱建物跡と絵画土器 (建物) 出土地点

旧練兵場遺跡 1 間×1 間掘立柱建物とその他の遺跡（香川県内）の 1 間×1 間掘立柱建物



旧練兵場遺跡 1 間×1 間掘立柱建物とその他の遺跡（香川県内）の掘立柱建物



旧練兵場遺跡の掘立柱建物

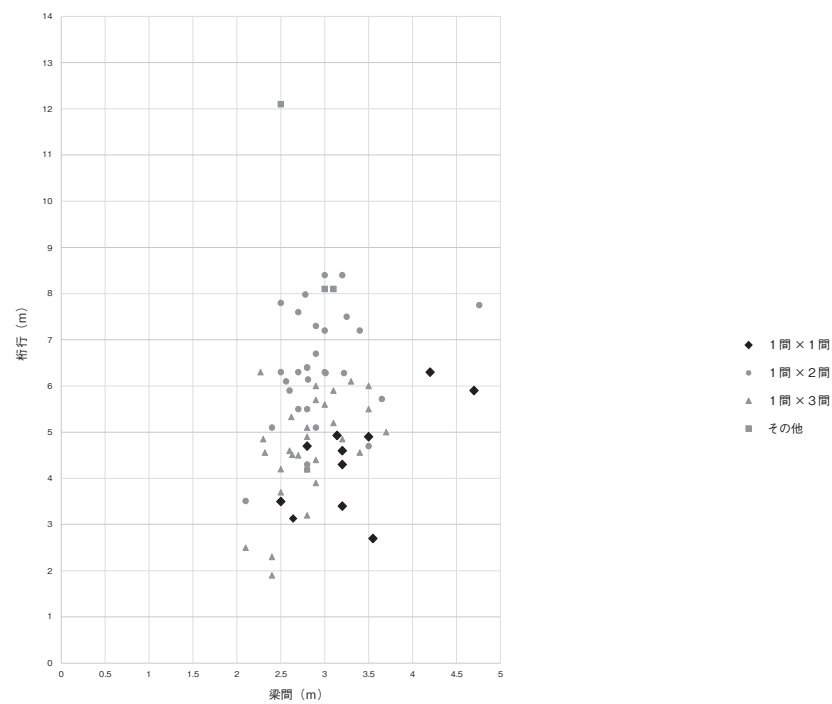


表 12 掘立柱建物の規模



表 13 絵画土器 (建物) 一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査番号など	器種	時期	内容	屋根		屋根飾り		壁	柱		梯子	備考	文献（太字は図の引用文献）
							屋根構造	屋根の表現	棟	棟の端部		棟持柱	柱の数			
1	久米池南遺跡	香川県高松市	壺 体部	弥生時代 中期後半	建物（屋根）	切妻造	斜格子	多数の縦線	無	無	無	1？	現存1？ （2本線で表現）	—	1・2は同一個体の可能性高い	『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会 1989
2	久米池南遺跡	香川県高松市	壺 体部	弥生時代 中期後半	建物（柱・梯子）	—	—	—	—	壁？吹き抜け？	—	—	現存1 （2本線で表現）	有	1・2は同一個体の可能性高い。2は高床	『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会 1989
3	別名寺谷1遺跡	愛媛県今治市	高杯脚部	弥生時代 中期	建物2棟	切妻造	縦線	多数の縦線	無	—	—	無	—	—	—	〔別名端谷Ⅰ遺跡 別名寺端谷Ⅱ遺跡 別名成ルノ谷遺跡 別名寺谷Ⅰ遺跡 別名寺谷Ⅱ遺跡〕財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター 2007
4	田村遺跡	高知県南国市	壺 体部	弥生時代 後期	建物	寄棟造	斜格子	無	無	無	無	—	現存3	—	高床の可能性高い	〔田村遺跡群Ⅱ〕高知県教育委員会（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 2004
5	角田遺跡	鳥取県米子市	壺	弥生時代 中期	建物2棟	切妻造	斜線	無	無	無	無	—	2 2（2本線で表現） または4	有	高床	佐々木健「鳥取県淀江町出土弥生式土器の原始絵画」『考古学雑誌』第7巻1号1981 金関恕「弥生土器絵画における家屋の表現」〔国立歴史民俗博物館研究報告第7集〕国立歴史民俗博物館 1985
6	新庄尾上遺跡	岡山県岡山市	壺	弥生時代 中期後半	建物	寄棟造	斜格子	円弧？	円弧（上向き）	壁？吹き抜け？	—	—	現存3または 現存2（1は2本線）	有？	高床	〔新庄尾上遺跡〕岡山市教育委員会 2009
7	雄町遺跡	岡山県岡山市	壺	弥生時代 中期後半～ 後期	建物2棟	寄棟造	斜格子	無	無	無	無	—	現存1本（2本線） 現存3本（2本線）	—	高床の可能性高い	〔岡山県埋蔵文化財発掘調査報告〕岡山県教育委員会 1972
8	雄町遺跡	岡山県岡山市	壺	弥生時代 中期後半～ 後期	屋根・柱？	切妻造？	縦横格子？	—	—	—	—	無	現存1本？	—	高床かどうか不明	〔岡山県埋蔵文化財発掘調査報告〕岡山県教育委員会 1972
9	南方遺跡	岡山県岡山市	分銅形土製品	弥生時代 中期後半	建物	切妻造	斜格子	無	無	無	無	2（1本線）	3（2本線）	無	高床 焼成後線刻	〔岡山県埋蔵文化財発掘調査報告〕岡山県教育委員会 1997
10	窪木遺跡	岡山県総社市	器台	弥生時代 中期後半	屋根・柱	寄棟造	斜格子	無	無	無	無	—	7（1本線）	無	高床の可能性高い	〔窪木遺跡1〕岡山県教育委員会 1997
11	養久山・前地遺跡	兵庫県たつの市	壺 肩部	弥生時代 中期後半	建物3棟	切妻造	斜格子	無	円	—	—	棟持柱を表現？	—	—	—	〔養久山・前地遺跡〕龍野市教育委員会 1995
12	川島川床遺跡	兵庫県太子町	壺 頸部	弥生時代 中期中葉	屋根・棟持柱？	切妻造？	斜格子	無	無	—	—	現存1？	—	—	高床	中澤康則「兵庫県揖保郡太子町川島川床遺跡出土の弥生中期絵画土器」〔考古学雑誌〕第66巻1号1980 金関恕「弥生土器絵画における家屋の表現」〔国立歴史民俗博物館研究報告第7集〕国立歴史民俗博物館 1985
13	池上曾根遺跡	大阪府和泉市		弥生時代 中期末	建物	切妻造	—	—	—	無	無	現存1	現存8	—	高床の可能性高い	佐原真・春成秀爾「原始絵画」講談社 1997
14	池上曾根遺跡	大阪府和泉市		弥生時代 中期中葉	建物	切妻造	斜格子	—	屋根脚端に半円形の飾り 現存6	無	無	2本	柱4	有	高床	藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」〔弥生のすまいを探る〕鳥取県教育委員会 2004
15	瓜生堂遺跡	大阪府東大阪市	壺	弥生時代 中期	屋根・柱？	切妻造？	一部斜格子？	—	—	無？	無？	現存1？	現存4？	—	建物であれば、高床の可能性高い	中西清人「瓜生堂遺跡の原始絵画」〔考古学雑誌〕第66巻第1号1980 金関恕「弥生土器絵画における家屋の表現」〔国立歴史民俗博物館研究報告第7集〕国立歴史民俗博物館 1985
16	大塚遺跡	大阪府高槻市	壺	弥生時代 中期後半	屋根・柱	切妻造	斜格子	無	直線	—	—	無	現存1	—	高床の可能性高い	坂見勇・福岡達男「高槻市大塚遺跡出土の建築物絵画のある弥生土器」大阪文化誌第12号1984 金関恕「弥生土器絵画における家屋の表現」〔国立歴史民俗博物館研究報告第7集〕国立歴史民俗博物館 1985
17	東奈良遺跡	大阪府茨木市	鉢 体部	弥生時代 中期後半	屋根？と庇	切妻造？	斜格子	無	無	—	—	—	—	—	—	奥井秀祐「東奈良遺跡出土の絵画土器」〔考古学雑誌〕第66巻第1号1980 金関恕「弥生土器絵画における家屋の表現」〔国立歴史民俗博物館研究報告第7集〕国立歴史民俗博物館 1985

番号	遺跡名	所在地	調査番号など	器種	時期	内容	屋根		屋根飾り		壁	柱		梯子	備考	文献（太字は図の引用文献）
							屋根構造	屋根の表現	棟	棟の端部		棟持柱	柱の数			
18	中曽司遺跡	奈良県橿原市	第7次	壺 体部	弥生時代 中期後半	建物6棟	寄棟造 切妻造 寄棟造 — 切妻造	斜格子 斜格子 斜格子 斜格子 斜格子	無 無 無 無 無	無 無 無 無 無	無 無 無 無 無	無 無 無 無 無	現存2(推定3) 3 2 現存2(推定3) — — —	— — 無 — — —		『奈良県の弥生土器集成』大和弥生文化の会 2003
19	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第61次	短頸壺 体部上半	弥生時代 後期前半	屋根・柱	寄棟造	斜格子	無	渦巻	—	—	—	—		『田原本町文化財調査報告書第5集 唐古・鍵遺跡Ⅰ』田原本町教育委員会 2008 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」『弥生のすまいを探る』鳥取県教育委員会 2004 『奈良県の弥生土器集成』大和弥生文化の会 2003
20	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町		壺 体部上半	弥生時代中 期後半?	屋根・柱	寄棟造	斜格子	—	渦巻 かどう か不明	—	—	現存1(2本線) または2	—		『田原本町文化財調査報告書第5集 唐古・鍵遺跡Ⅰ』田原本町教育委員会 2008 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」『弥生のすまいを探る』鳥取県教育委員会 2004
21	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町		壺	弥生時代中 期後半?	屋根・柱	寄棟造	斜格子	—	—	—	無	現存1	—		『田原本町文化財調査報告書第5集 唐古・鍵遺跡Ⅰ』田原本町教育委員会 2008 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」『弥生のすまいを探る』鳥取県教育委員会 2004
22	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町		壺?	弥生時代中 期後半?	屋根・柱?	切妻造?	斜格子	—	—	—	—	現存1または梯子	高床の可能性高い		『田原本町文化財調査報告書第5集 唐古・鍵遺跡Ⅰ』田原本町教育委員会 2008
23	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町		壺?	弥生時代中 期後半?	屋根・柱?	—	斜格子	—	—	—	—	現存2(2本線の中を補綴多数で充填)	—		『田原本町文化財調査報告書第5集 唐古・鍵遺跡Ⅰ』田原本町教育委員会 2008
24	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第69次	壺	弥生時代中 期後半	柱・梯子 鳥・梯子	—	—	—	—	—	—	現存2	有 高床		『田原本町文化財調査報告書第5集 唐古・鍵遺跡Ⅰ』田原本町教育委員会 2008
25	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第73次調査	壺 体部	弥生時代 中期後半	建物・鹿	切妻造	斜格子	無	半円の円弧	無	無	現存4	—		『奈良県の弥生土器集成』大和弥生文化の会 2003 『弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風道跡の土器絵画～』田原本教育委員会 2006 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」『弥生のすまいを探る』鳥取県教育委員会 2004
26	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第33次調査	壺 体部	弥生時代 中期後半	建物	寄棟造	斜格子	無	半円の円弧	無	—	4	有 高床		『唐古・鍵考古学ミュージアムミュージアムコレクション 1』唐古・鍵考古学ミュージアム 2007 『田原本町文化財調査報告書第5集 唐古・鍵遺跡Ⅰ』田原本町教育委員会 2013 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」『弥生のすまいを探る』鳥取県教育委員会 2004
27	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第47次・77次調査	壺 体部	弥生時代 中期後半	建物	寄棟造	縦線	無	渦巻	吹きぬけ?	—	2	有 高床2階建て		『唐古・鍵考古学ミュージアムミュージアムコレクション 1』唐古・鍵考古学ミュージアム 2007 『弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風道跡の土器絵画～』田原本教育委員会 2006 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」『弥生のすまいを探る』鳥取県教育委員会 2004
28	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第59次調査	壺 体部	弥生時代 中期中頃	3棟の建物と船	切妻造 切妻造 切妻造	斜格子 斜格子 無	無 多数の縦線 縦線2本	縦線2本	—	無	—	—		『奈良県の弥生土器集成』大和弥生文化の会 2003 『弥生の絵画』藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」『弥生のすまいを探る』鳥取県教育委員会 2004 『弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風道跡の土器絵画～』田原本町教育委員会 2006
29	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第22次調査ほか	壺 体部	弥生時代 中期後半	建物 鹿など	寄棟造	斜格子	無	上郡部端(渦巻き)	—	—	—	有 高床		『奈良県の弥生土器集成』大和弥生文化の会 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」『弥生のすまいを探る』鳥取県教育委員会 2004 『弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風道跡の土器絵画～』田原本町教育委員会 2006 『唐古・鍵考古学ミュージアムコレクション Vol.3』唐古・鍵考古学ミュージアム 2010

番号	遺跡名	所在地	調査番号など	器種	時期	内容	屋根	屋根廻り	壁	柱	備考	文献（太字は図の引用文献）
							屋根構造	棟		棟柱		
							屋根の表現	棟の端部		柱の数	梯子	
31	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第76次調査		建物	建物	常棟造	無	無	4	有	高床
32	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第3次調査		建物	建物	切妻造	無	無	多敷	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
33	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第1次		建物・人物	建物	切妻造	—	無	4	有	高床
34	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第1次		屋根	—	—	—	—	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
35	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第1次		建物？	—	—	無	—	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
36	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第1次		建物？	—	—	—	無	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
37	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第1次	壺 体部	弥生時代 中期後葉	建物	切妻造	無	無	現存1(2本線)	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
38	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第1次	壺	弥生時代 中期後葉	建物	切妻造	—	無	現存1(2本線)	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
39	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第52次				切妻造？	無	直線2本	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
40	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第58次		屋根	—	—	—	直線	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
41	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第59次		屋根	—	—	—	—	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
42	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第92次		梯子？	梯子	切妻造	直線多数	—	1？	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
43	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第1次		建物	建物	切妻造	—	無	—	有？	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
44	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第22次		屋根	—	—	—	直線	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
45	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第62次		屋根	—	—	—	渦巻	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
46	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第2次		屋根・柱	—	—	—	—	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
47	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第2次		屋根・柱	—	—	—	—	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
48	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第2次		屋根・柱	—	—	—	—	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006
49	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	第2次		屋根・柱	—	—	—	—	—	—	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会2006



番号	遺跡名	所在地	調査番号など	器種	時期	内容	屋根		壁	柱		梯子	備考	文献（太字は図の引用文献）
							屋根構造	屋根の表現		棟	棟の端部	棟持柱	柱の数	
50	清水風遺跡	奈良県田原町・天理市	第1次	壺		船と建物	切妻造	斜格子	無	縦線多数	無	無	3	「弥生の絵画～唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の土器絵画～」田原本町教育委員会 2006
51	清水風遺跡	奈良県田原町・天理市	第2次	壺	弥生時代 中期後半	屋根	寄棟造	縦線？	無	無	半円の渦巻	—	—	「田原本町埋蔵文化財調査年報 1986年度」田原本町教育委員会 1997 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」「弥生のすまいを探る」鳥取県教育委員会 2004 「奈良県の弥生土器集成」大和弥生文化の会 2003
52	清水風遺跡	奈良県田原町・天理市	第2次			屋根・柱	寄棟造？	斜格子	無	無	弧状	無	10	藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」「弥生のすまいを探る」鳥取県教育委員会 2004
53	清水風遺跡	奈良県田原町・天理市				建物	寄棟造	斜格子	無	無	無	無	5	藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」「弥生のすまいを探る」鳥取県教育委員会 2004
54	清水風遺跡	奈良県田原町・天理市		壺		屋根	寄棟造？	斜格子一部斜線	—	無	円	—	—	「弥生エッセンス」唐古・鍵考古学ミュージアム 2011
55	清水風遺跡	奈良県田原町・天理市	第2次			屋根	切妻造？	縦線	—	—	渦巻	—	—	「奈良県の弥生土器集成」大和弥生文化の会 2003
56	清水風遺跡	奈良県田原町・天理市			弥生時代 中期後半	屋根・柱	切妻造？	斜格子	—	—	—	無	現存 3	「奈良県の弥生土器集成」大和弥生文化の会 2003
57	清水風遺跡	奈良県田原町・天理市			弥生時代 中期後半	建物	寄棟造？	斜格子	無	無	渦巻	無	10	「奈良県の弥生土器集成」大和弥生文化の会 2003
58	法興寺斎宮跡	奈良県田原町				建物 2 棟	寄棟造 切妻造	斜線 縦線	無 無	無 縦線多数	無 いびつな円形	無 無	1 (2 本線) または 2	「弥生エッセンス」唐古・鍵考古学ミュージアム 2011 「奈良県遺跡調査概報 2007 年」奈良県立歴史考古学研究所 2008
59	多遺跡	奈良県田原町				建物	寄棟造	縦横格子	無	半円 4 個	直線 2	—	現存 5	「太安万侶のふるさと」唐古・鍵考古学ミュージアム 2007
60	八尾九原遺跡	奈良県田原町			弥生時代 中期後半	建物	切妻造	—	—	—	渦巻（下向き）	現存 1	柱現存 5 （推定多数）	「田原本町埋蔵文化財調査年報 1986 年度」田原本町教育委員会 1997 「奈良県の弥生土器集成」大和弥生文化の会 2003 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」「弥生のすまいを探る」鳥取県教育委員会 2004
61	芝遺跡	奈良県桜井市		甕		屋根	寄棟造	斜格子	無	無	無	—	—	「奈良県の弥生土器集成」大和弥生文化の会 2003 「桜井の弥生時代」桜井市立埋蔵文化財センター 1999
62	芝遺跡	奈良県桜井市		壺		建物	切妻造？	斜格子	無	斜格子	渦巻	2	6	「桜井の弥生時代」桜井市立埋蔵文化財センター 1999
63	四分遺跡	奈良県橿原市		大型細頸壺	弥生時代 中期中頃	建物 2 棟	切妻造	斜格子	無	無	側縁に半円形頂辺の片方に半円形	無	無	「奈良県の弥生土器集成」大和弥生文化の会 2003 藤田三郎「土器に描かれた弥生の建物」「弥生のすまいを探る」鳥取県教育委員会 2004
64	烏丸綾小路遺跡	京都府京都市				建物	切妻造	縦線	—	縦線多数	渦巻	現存 1	—	「京都市内遺跡立会調査概報 平成 4 年度」（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003
65	男里遺跡	大阪府泉南市			弥生時代 中期末	建物 3 棟	寄棟造	縦線	無	無	無	—	3 (2 本線)	「弥生画帖 弥生人が描いた世界」大阪府弥生文化博物館 2006